## 星野助教授、教授に昇任

星野俊也OSIPP助教授の教授への昇任が6月19日の教授会で承認され、7月16日付で発令された。

59年生まれ。群馬県出身。上智大学外国語学部英語学科卒。東京大学大学院総合文化研究科より修士号（学術）。2003年、OSIPPにて博士号（国際公共政策）取得。在米日本国大使館専門調査員、日本国際問題研究所主任研究員、米プリンストン大学ウッドロウ・ウィルソン・スクール客員研究員などを経て、98年からOSIPPへ。専門は国際政治、国際安全保障論、米国研究、国連研究。『グローバル・ガヴァナンス－政府なき秩序の模索』（共著、東京大学出版会、01年）、『国際危機学－危機管理と予防外交』（共著、世界思想社、02年）、『人道危機と国際介入－平和回復の処方箋』（共著、有信堂、03年）、*Containing Conflict: Cases in Preventive Diplomacy* (co-authored)(Tokyo: Japan Center for International Exchange, 03)など著作多数。

## 独の反戦運動、アフガンの女性解放運動など議論　平和研究フォーラム

平和研究にかかわる諸問題を論じあう「平和研究フォーラム」が6月9日、「冷戦後ドイツの平和運動と兵役拒否」をテーマにOSIPP棟で開かれた。ドイツ平和評議会のハンス＝ペーター・リヒター氏と、兵役を拒否し日本の特別養護老人ホームに勤務するアンドレス・プルザク氏、加えてドイツからのコメンテーター２人が招かれた。コーディネーター役は、木戸衛一OSIPP助教授。

リヒター氏は、「ベルリンの壁」崩壊後のドイツの平和運動を包括的に説明。ドイツの平和運動は、イラク戦争反戦デモに50万人もの市民が集まるなど活発だが、戦争を容認する政府・知識人の意見が反戦世論に少なからず否定的影響を与えてきた事実も指摘した。プルザク氏は、兵役の代わりに病院や福祉施設などで勤務する「兵役代替役務」をわかりやすく解説した。兵役は日本に無い制度であるため、参加者から積極的に質問が向けられた。

また、7月10日にはアフガニスタン女性革命協会（RAWA：the Revolutionary Association of the Women of Afghanistan）のスポークスウーマンであるサハル・サバ氏、アフガニスタン国際戦犯民衆法廷関西実行委員会の小山潔氏を招いた。

RAWAはイスラム原理主義が導入されて以来、女性の解放を目指して非合法に活動を続けており、サバ氏は女性の教育・医療を受ける権利の欠如、誘拐の頻発など人権侵害はいまだ継続している現状を指摘。小山氏は、アフガン攻撃における米英の戦争犯罪（民間人殺害や捕虜の虐待、虐殺）を明らかにし、国際世論に訴えることを目的とした国際戦犯民衆法廷について解説した。

## IPP研究会７氏が報告

IPP（International Public Policy）研究会がOSIPP棟で以下のように開かれた。

▼5月1日、大阪府立産業開発研究所、文能照之氏、「クラスター機能に関する実証的研究－新たなベンチャー企業創出に向けて－」▼5月10日、立命館大学経済学部助教授、寺脇拓氏、「選択実験デザインにおける現実的な選択肢の重要性」（OSIPP地域経済研究センターと共催）▼6月28日、株式会社インテージ、中西眞知子氏、「リサーチの現状と今後の動向」▼7月3日、OSIPP助教授、瀧井克也氏、「Entrepreneurial Efficiency」（第１回経済政策セミナーシリーズ）▼7月4日、防衛研究所主任研究官、吉崎知典氏、「同盟のマネージメント－米欧間の軍事能力格差問題を中心に」（OSIPP国際安全保障政策研究センターとの共催）▼7月10日、陸上自衛隊第2混成団法務官、矢野哲也氏、「冷戦後の日米防衛協力の在り方に関する一考察－対等な同盟国としての主体性の確立のために－」（博士論文公開審査会も兼ねる）▼7月16日、OSIPP博士後期課程3年、　永佳甫氏、「Essays On The Public And Nonprofit Economy」（博士論文公開審査会も兼ねる）

## 今川助教授、総務省へ

今川拓郎助教授は7月14日付けでOSIPPを離任し、総務省情報通信政策局総合政策課・課長補佐に着任した。

今川前助教授は90年に郵政省に入省、情報通信の仕事に携わる一方、ハーバード大学で経済学のPh.D.を取得。2000年からOSIPPに出向する形で教鞭をとり、情報技術と経済学を結び付ける研究で成果を上げた。

「大学院教官という体験は楽しかった。実務時代と違い、落ち着いた環境で研究できたことがうれしかった」とOSIPPでの経験を振り返り、学生には「真の学際性とは何かをよく考え、基本となる専門性をきちんと身に付けて卒業してほしい」とメッセージを残した。

## 院生会の新幹事決まる

OSIPP院生の自治組織、院生会の第1回院生幹事会が6月6日、OSIPP棟で開かれ、代表幹事を含む新幹事が決定した。**▼代表：中島満（黒澤研、M1）▼副代表：岩江荘介（藤井研、M1）、中山奈津美（床谷研、M1）▼会計：高橋一雄　（高阪研、M1）▼書記：幸長由子（星野研、M1）▼厚生：中谷未里（松繁研、M2）、奥村まどか（山内研、M2）▼備品：沈俊毅（橋本研、M2）、小畑宗臣（辻研、M1）▼ロッカー：根岸真美（野村研、M2）、高嶋華子　（エルドリッヂ研、M1）▼HP運用：松井一博（村上研、D2）、梶谷真也　（小原研＝ゼミ連合、M2）＊敬称略。ゼミ連合は、河田、木戸、藤井、米原、大竹、小原、齋藤、鈴木、瀧井、伴各研究室。**

•@œ•@¨′m,ç¹•@œ

**•@ニューズレター編集部の体制が今春から変わりました。ニューズレターの編集・発行はOSIPP広報委員会の所管の下、助手の重政公一、村下明子が現場での作業一般を指揮・調整し、院生の佐藤江鈴子（D１）、佐藤温子（同）、安藤友香（M2）、鵜川裕美（同）、北川雄一朗（同）、工藤正樹（同）、佐藤美里（同）、根岸真美（同）、原本知美（同）、板元明日香（同）、高嶋華子（M1）、中島満（同）、幸長由子（同）、北村紘（同）が分担して取材、記事執筆にあたります。また、全体の統括、DTPなどは饗場和彦（前OSIPP助手、現徳島大学助教授、元読売新聞記者）が引き続き担当します。今後ともよろしくお願いいたします。**